



実践クラブ  
上田 義定  
議員

### ▼公共下水道事業について

Q 公共下水道基本計画のこれまでの経緯と、今後の方向性はどうかになっているのか。

A 平成十七年十二月に策定された長崎県汚水処理構想では、島原市と有明町で処理区域面積を千二百三十八ヘクタール、計画人口で四万四千七十九人、概算事業費が約五百七億円であった。これを見直すということで、平成十九年度に島原市公共下水道基本計画を策定したが、二十三年度の構想見直しでは、処理区域面積を八百九十八ヘクタール、計画人口を二万三千五百四十三人、概算事業費を二百三十三億円に縮小している。市民の意向や財政状況を考慮しながら、よりコンパクトな下水道計画を検討し、二十四年度中には方針を決めていければと考えている。

Q 仮に公共下水道に接続した場合、便器等の水回りの住宅器具の改修が必要になると思うが、その費用に対する補助制度の創設は考えているのか。  
A 現在のところは考えていない。

### ▼本市で事務局を担当している各種団体の会計管理について

Q 長崎市では認定農業者連絡協議会と、担い手育成総合支援協議会の事務局担当の職員による不正支出の問題があったが、本市での通帳と印鑑の管理及び監査の状況はどうなっているのか。  
A 本市にも同様の協議会があり、農林水産グループの職員が担当している。通帳は班長が管理し、公印はグループ長が保管している。また、規約に基づき選出された監事が二名おり、毎年監査が行われ、適正に運営されている。

### ▼第五回ジオパーク国際ユネスコ会議について

Q 市民はどのような形で参加できるのか。  
A メーン会場での基調講演会や分科会、展示ブースなどに自由に参加できる。また、市民参加型のパブリックフォーラムとしてジオツーリズム、子供発表、ジオパークと防災などが開催される。また、身近な材料を利用した火山実験や会場周辺では物産展の開催やジオ鍋、そうめん流しも提供される予定である。また、町なかでも各種交流イベントを計画しており、市民皆さまの積極的な参加をお願いしたい。



庶民の会  
松井 大助  
議員

### ▼まちづくりについて

Q 鉄砲町のまちづくりの今後をどう考えているのか。  
A 武家屋敷地区は、二十一年に島原市の景観計画が策定され、景観条例を制定したところだが、今後も鉄砲町の文化的な価値と制度の周知を図り、住民の同意を得ながら、歴史的景観が残っている地域の特性を守るため、伝統的建造物群保存地区の導入を目指していきたい。また、鉄砲町地区の範囲は、古丁、城西中の丁、下の丁、江戸丁、北原町の一部、新建の一部が理想的な範囲とされている。

Q 武家屋敷周辺の電線の地中化を以前から提言していたが、その後の取り組みはどうなっているのか。  
A 市と電線管理者との協議の中で、費用負担の問題で調整がつかず、計画の実施が見送られている。

### ▼高齢者のひとり暮らし対策について

Q 高齢者の孤独死に関する本市の状況は

どうなっているのか。またひとり暮らしはどれくらいいるのか。  
A 本市の詳細なデータはないが、長崎県の二十二年度における独居死の数は四百五十二人で、そのうち六十五歳以上は二百九十三人である。また、ひとり暮らし世帯は、本市の総世帯数一万六千九百六十六世帯のうち六十五歳以上は千八百八十九世帯、率で十一%である。

Q 高齢者のひとり暮らしにはどのような対応をしているのか。  
A 二十四時間コールセンターに通報可能な緊急通報システム事業を取り入れている。また、今年度からは島原市地域包括支援センターが中心となり、高齢者の事故や異変の早期発見、早期対応を図るために、町内会、自治会、民生委員、警察、介護保険事業所など各種団体や事業所で構成する島原市高齢者等見守りネットワーク協議会を設置した。さらに、当協議会の構成団体である郵便局株式会社、郵便事業株式会社、九州電力株式会社、長崎ヤクルト株式会社との間で、市と医師会の三者間で協定を締結し、高齢者等を見守るための連携体制を強化している。

### 【その他の質問項目】

◇島原城の城壁に根ざす木の根等の対策について